Citizens Net for Habitat Fukuoka
ハビタット福岡市民の会

平成１３年６月１日発行
＜第７号＞
発行：ハビタット市民の会

国連ハビタット親善大使　マリ・クリスティーヌさんからメッセージ

ニュースレター第７号目次

■国連ハビタット親善大使
　マリ・クリスティーヌさんのメッセージ　１
■日本ハビタット協会が活動開始　２
■ハビタット福岡事務所スタッフ紹介　３
■福岡市南区の市民がアジアの子ども達へ
　文房具支援
　ラヒラ・ハシムさんの講演会開催　４
■市民によるハビタット福岡評価委員会
　の提言かたまる　５
■行事報告・お知らせ
　日本ハビタット協会事務局を訪ねて　６

PROFILE

東京都生まれ。四歳からドイツ、イラン、タイ国籍。十七歳で単身日本に帰国。大学で生活。語学学習に三十二年間を費やし、現在は国連ハビタット親善大使に就任。

MEETING

市民の会の定例会を毎月１回行っています。
どうぞお気軽にお越しください。

今後の予定は
６月２１日（木）
７月１９日（木）
(19:00～21:00)
初めての方のために 18:30 から
オリエンテーションを行っております。

事前に市民の会のホームページ
http://www.fukuoka.unchs.org
またはお電話 092-724-7121
でご確認ください。

こんにちは。マリ・クリスティーヌです。

昨年、国連ハビタット親善大使に任命されました。

恵まれた国に住む私達にはなかなか認識できないのですが、都市化が進む現在、地球上のいたるところに、この急激な動きに苦しめられている人々が大勢います。安心して住める場所や安全な水の確保、都市過密化問題の解決、インフラ整備など生活の基本を整え、自分たちで自分の問題を処理できるようにより良い「まちづくり」をお手伝いするのが、ハビタットの、そして親善大使の私の仕事です。

私のこれまでの様々な体験、タイの山岳民族の子どもたちへの支援、女性の人権問題、国や自治体の委員会の仕事、社会工学の研究、子どもの頃のドイツ・アメリカ･イラン・タイそして日本での異文化の生活、それらを生かして任務にあたりたいと思っています。

私は２１世紀は国境を越え、地球全体を一つの単位として考えていかなければならないと考えています。隣に住む人たちと、手を取り合い、協力し合うことがとても重要です。

そう考えた時、国連機関が地元にあるということはとても素晴らしいことです。それは自分の住んでいる所に世界への「扉」を持っているということです。是非気軽に「扉」をノックしてください。そしてお互いに手を携え、私達の住むかけがえのない地球を大切にしていこうではありませんか。

日本ハビタット協会が活動開始　－４月２６日に第１回理事会－

ハビタットの活動を支援することを目的に、民間の任意団体として「日本ハビタット協会」が３月１６日に設立され、４月２６日には第一回理事会が、虎ノ門の霞山会館で開催されました。理事会では、役員の承認の後、平成１３年度の事業計画及び事務局の予算計画が審議されました。

協会の重要な役割の一つに、ハビタット福岡事務所並びにそのプロジェクトを支援するための資金援助を募る活動があります。このファンドレイジング活動を軌道にのせ、成功させることが、協会の使命でもあります。既に資金援助を申し出てくださっている企業もあります。しかし、企業にとってもただお金を寄付するというのではなく、従業員がハビタットの活動に関わることで、社会との接点を見出したり、ボランティア活動に関わったりする経験ができるようなしくみが欲しいという要望がありました。

例えば、現地のプロジェクトにボランティアとして参加するスタディツアーなどがあれば、従業員が参加できるよう支援していきたいという声もありました。理事会終了後、同じ霞山会館で協会の設立記念祝賀会に移り、アメリカ大使館の大使代行をはじめとする各界から多くの方々が祝福にかけつけ、盛大にお祝いの宴が催されました。祝賀会には、小泉新総理大臣、麻生福岡県知事、山崎福岡市長からもお祝いのメッセージが届きました。

祝賀会で挨拶に立つマリ・クリスティーヌ副会長

第１回理事会にのぞむマリ・クリスティーヌ副会長（左）、伊藤会長（中央）、大星副会長（右）

福岡県からは麻生知事の代理で長澤副知事が、福岡市からは山崎市長の代理で西助役も理事会及び祝賀会に参加されました。ハビタット親善大使でもあり、協会の副会長でもあるマリ・クリスティーヌさんからは、「ハビタットのアジア・太平洋地域担当の事務所が福岡にある意義は大変大きい。福岡県・市の皆様は、この価値を十分にご理解いただき、さらなる支援をお願いしたい」と地元への期待を訴えました。（報告：松田）

●日本ハビタット協会の連絡先
東京都千代田区麹町 1-12 ふくおか会館 1 階
TEL&FAX：03-3512-0355
http://homepage2.nifty.com/habitat01/
E-mail：japan-habitat@nifty.com

●日本ハビタット協会役員

会　長　伊藤　滋（東京大学名誉教授）
副会長　大星　公二（NTT ドコモ代表取締役会長）
副会長　マリ・クリスティーヌ（国連ハビタット親善大使）
理　事　明石康（日本予防外交センター会長）　麻生渡（福岡県知事）　大西隆（東京大学教授）
奥谷通（衆議院議員）　川合辰雄（九州電力相談役）　久保田勇夫（都市基盤整備公団副総裁）
竹本直一（衆議院議員）　中西珠子（女性連帯基金代表）　中村徹（新東京国際空港公団総裁）
広野良吉（成蹊大学名誉教授）　藤原良一（建設業振興基金理事長）　山崎広太郎（福岡市長）
渡辺貴介（東京工業大学教授）
参　与　佐藤摩利子（ハビタット福岡事務所人間居住アドバイザー）
野田順康（元ハビタット居住専門官）

●日本ハビタット協会の主な事業計画

６月６～８日	国連特別総会イスタンブール＋５（ニューヨーク）に参加 今年の国連特別総会では５年前にイスタンブールで開催された人間居住会議以降、世界居住環境や都市問題がどのように改善されたかが話し合われます。
８月３０日～９月３日	国際防災フェアで展示（横浜）
１０月１日	世界ハビタットデーに協賛　（福岡）
１０月６～７日	国際協力フェスティバルで展示　（東京・日比谷公園）
１１月中旬	ボランティア国際年フェスタで展示（東京・青山）

ハビタット福岡ではたらく人たち

WE ARE HABITAT STAFF　ーよろしくお願い申し上げますー

福岡事務所所長
ディサ・ウィラパーナ
（スリランカ）

国連人間居住センター（ハビタット）福岡事務所は、その管轄しているアジア太平洋地域の加盟国、主に発展途上国に対して、まちづくり（住宅と居住、そして都市問題）に関する技術的な支援をするとともに、人々の住環境改善に関する考え方を提唱する役割（規範的な役割）も果たしています。

国連人間居住センターの活動にとって、民間部門を含め全ての関係者との協力関係を築きあげることが、今後ますます重要になってきています。よりよい世界を築くため、国連はみなさんの支援を必要としています。

今後ともハビタットへのサポートを、よろしくお願いします。

上級人間居住ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ
マダブ・マテマ
（ネパール）

上級人間居住ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ
ヤン・メイウィッセン
（オランダ）

人間居住ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ
ｼｮｰﾝ・マッカーシー
（アイルランド）

人間居住ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ
佐藤摩利子

廃棄物管理ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ
境　道啓

ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ･ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ･ｵﾌｨｻｰ
レオナルド・ゼズリン
（ロシア）

ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾄ･ｵﾌｨｻｰ
苗井章紀

所長付秘書
庭田淳子

ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ･ｱｼｽﾀﾝﾄ
大島美喜

ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ･ｱｼｽﾀﾝﾄ
後藤真子

ｵﾌｨｽ･ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ･ｱｼｽﾀﾝﾄ
熊谷有美

ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ･ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ･ｱｼｽﾀﾝﾄ
ﾘﾁｬｰﾄﾞ・ブライティ
（イギリス）

ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ･ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ･ｱｼｽﾀﾝﾄ
出口公美子

受付
ｼﾞｭﾆｱ･ｵﾌｨｽ･ｱｼｽﾀﾝﾄ
山本美香

インターン
来島一男

福岡市南区で「ブング・エイド・フォー・アジア　ーボランティア国際年記念の集いー」
ミャンマー・バングラデシュの子どもたちに市民が文房具を支援

５月１９日（土）夜、福岡市南区の南市民センターで「ブング・エイド・フォー・アジア★ボランティア国際年記念の集い」（主催：創価学会南区青年部）が開催され、約７００人のファミリーが集いました。この日の入場券は、エンピツ・消しゴム・ノートなどの文房具類。これを「ハビタット市民の会」を通じてバングラデシュとミャンマーの子どもたちに贈ろうというのがこのイベントの主な目的。この呼びかけに多くの市民の方が文房具をもって参加。文房具はあっという間に段ボール箱１０箱も集まりました。

当日はハビタット福岡事務所のディサ・ウィラパーナ所長がゲストとして招かれ、ハビタットの活動、アジア各国の居住環境や子どもたちの教育の現状について約３０分間スピーチ。参加した市民はディサ所長の映像を使っての話に聞き入り、ハビタットの活動や理念に深く共感。

最後に参加した小学生がディサ所長に質問をしました。「アジアの子どもたちは汚れた水を飲んでおなかをこわさないのですか？」と。ディサ所長は「とても大事な質問です。居住環境が悪くなることによって健康・病気の被害を蒙るのは６０％は子ども達です。子ども達がそうならないように私達ハビタットが活動しているのです」と力強く答えました。

他に、バンド演奏、創価学会青年部有志による創作劇「谷間のライオン」が上演され客席から盛んな拍手が寄せられました。

終了後、市民の会として集まった文房具を現地へ送るための「輸送費募金」を実施。たくさんの真心の御協力をいただきました。

ハビタット福岡事務所としては今後もこのような市民の方が企画された国際貢献を考える企画等に参加していく予定です。

ハビタットの理念を熱く語るディサ所長

ディサ所長の話に熱心に聞き入る参加者

参加者から寄せられた多くの文房具

アフガニスタン・ハビタット・コミュニティー開発アドバイザー
ラヒラ・ハシムさんが講演　～「Start by woman leader」でまちづくり推進～

４月５日（木）１８：３０から、ハビタット福岡事務所で、アフガニスタンのハビタットでコミュニティ開発アドバイザーとして働いているラヒラ・ハシムさんの講演が行われました。ラヒラさんは、東京での JICA 研修プロジェクト参加のため来日し、研修で忙しい中、福岡までおいでいただき「アフガニスタンにおけるコミュニティ開発」というテーマでお話しをしていただきました。ハビッタット職員のマテマさんの解説を交えながら、同行された日本国際協力センターの北村美知代さんの名通訳により、予定時間をオーバーして活発な質問もあり、盛会でした。

講演の中でラヒラさんは、アフガニスタンの現状と問題点に言及。アフガニスタンでは、ここ２２年間内戦状態で、人々はお互いの信頼をなくし、かつ無政府状態という最悪の状態。危険が常に日々の生活の中に存在し、女性にはさまざまな宗教上の制限が重く課せられ、伝統的な男社会であり、女性の社会活動は容易ではないことを指摘。

そこで、国連人間居住センター（ハビタット）としてのコミュニティ開発への取り組みは「Start by woman leader」という方針で、１５名ぐらいのグループをつくり、リーダーを選ぶという取り組みを６つの地域で行い、現在７３のコミュニティフォーラムができている。そのうち、女性のみのグループを２６グループ結成。疲弊したコミュニティ再生に大きな役割を果たしているとの報告がありました。

講演会のあと、ラヒラさんを囲んで有志で夕食懇親会があり、ラヒラさんの人となりにも接することができ、有意義な時間を過ごすことができました。アフガニスタンのこういう国情の中で、危険を冒して女性の身で活動されるラヒラさんの勇気と行動力に敬服するとともに、これからのますますの活躍を期待したいと思います。（報告：牟田）

市民によるハビタット福岡評価委員会の提言まとまる

「市民によるハビタット福岡事務所評価委員会」は、国連人間居住センター（ハビタット）福岡事務所及びハビタット福岡市民の会より、要請を受けて発足し、６名の委員が４回にわたる会合をもって、本提言をまとめるに至りました。本委員会の目的は、ハビタット福岡事務所の開設以来の活動を、ホスト地である福岡を中心にした地域コミュニティとの関わりという視点から成果を総括すると共に、今後取り組む課題を明らかにし、さらに課題解決の方向性を提言するものです。

＜評価委員会の皆さん＞ 委員長：緒方世喜子（福岡県教育委員長）
委員：阿佐部伸一（ＲＫＢ毎日放送報道部記者）、大楠正子（福岡雙葉学園海外交流委員長）、岡　道也（財団法人福岡都市科学研究所主幹研究員）、藤田一枝（明日のカンボジアを考える会・ハビタット NGO フォーラム世話人）、吉田　潔（株式会社アジアビジネスセンター取締役総合研究所長）　（敬称略・五十音順）

★「市民によるハビタット福岡事務所評価委員会」提言に盛りこまれたアクションプラン★

（１）ハビタット福岡事務所のミッションは、アジア太平洋地域における居住環境の改善および都市問題を解決することである。ゆえに、ハビタットに対し、福岡県や福岡市にとっての直接的な便益を求めるような狭隘な視点は排除しなければならない。その視点から、国連人間居住センター（ハビタット）福岡事務所の日本語名を、「国連人間居住センター（ハビタット）アジア・太平洋事務所」に変更する。

（２）コミュニティにおけるプレゼンスを高め、コミュニティとの関係づくりを強化するために広報・マーケティング活動のための人材雇用及び活動に必要な出費を投資として考え、資金を確保する。

（３）単なる広報にとどまらず、コミュニティとの関係づくりを含む活動をコーディネートする専従スタッフを３名（非常勤スタッフを含む）を配置する。

（４）ハビタットの広報キャンペーンにあたっては、ハビタットの活動そのものを伝えるよりも、その活動を通して、世界の人々に提供される価値や、大切なことは何かを伝えること。誰にでも、わかりやすいシンプルな表現で、繰り返して周知するキャンペーンを行う。そのためには「居住の権利」という概念を人権のひとつととらえて浸透させること、「ハビタットはまちづくりの国連機関です」という切り口でどういうふうにして私達の生活と結びつけたらいいのかを視点に考える。ユニセフやＷＨＯのような注射器が１本いくら、学校を建てるレンガ１個がいくら、というわかりやすい協力の仕方を提唱する。

（５）広報の専従スタッフは紙媒体による報告書を編集・制作し、月次、年次で活動を報告していく。毎月は、ニューズレターで発行し、年間ベースでは活動報告書（アニュアルレポート）を発行する。インターネットは普及しているが、やはり紙でのこるものが大事であり、写真、レイアウトも工夫し、それをタイムリーに出す。アジア太平洋地域のニュースが最近少なくなったが、こんないい話がある、こんな大変な状況がある、ということも掲載していく。
また、募金活動や緊急募金、キャンペーンなどをシステムとして稼動できるような体制を作る。例として福岡中の居酒屋、喫茶店、屋台にハビタットの写真付きの募金箱、ポスターを置くこと、すでに市民団体が展開している「ブング・エイド・フォー・アジア」といったキャンペーン等を活発にしていくこと。

（６）現地のハビタットプロジェクトオフィスを通じて、主に物資の支援のニーズを日本に送り、日本国内でそのニーズに応えたい人々とをつなぐ「ニーズ・マッチング・システム」を構築し、運営していく。これにはインターネットのウェブサイトを活用し、ハビタットの活動を理解してもらいながら現地の支援を行うプロジェクトとして運営していく。

（７）協力委員会企業に、個別の具体的な支援を依頼していく。例えば、社屋・店頭にハビタットの案内やパンフレットを配置させてもらったり、銀行の各支店にハビタットの案内やパンフレットを配置、写真展、募金受付の口座開設と手数料免除などの支援、ロビーコンサートなどの際のチャリティ募金協力など。また、協力委員会企業や地元企業から、ハビタット福岡事務所に長期（１年以上）での人材派遣をしていただき、広報や地域との関係づくりに貢献してもらう。

（８）市民の参加を促すしかけをつくり、クリエーターや学生など異分野の参加を促す。特に今年の世界ハビタットデーの企画や小学校の総合的な学習の時間のカリキュラムで使えるハビタットの副読本やビデオを作る際はアーティストたちと連携していく。教材の制作にあたっては学校の先生ではなく、アーティストやクリエーターのエネルギーを使って、ハビタットの新しいテキスト、映像教材をつくる。また、学校の先生方の研究会とつなげる努力をする。

（９）地元大学に人間居住学科を新設することを提案する。また国内外のシンクタンクや研究機関との間の人事交流を促進する。国内外のシンクタンクや研究機関との間の人事交流を促進する。

（10）カンボジア、東ティモール、インド西部地震の復興、北朝鮮のプロジェクトを実施したり、また居住問題をＡＰＥＣの議題に取り上げてもらう等の日本の外務省のＯＤＡ政策との効果的連携の構築を図る。また、日本国内で地元の居住問題・都市問題に関し、ハビタットがプロジェクトを推進する。

行事報告・お知らせ

日本ハビタット協会を訪ねて

事務局長代行の山本博子さん（左）、スタッフの長島若菜さん（中央）、飯田綾さん（右）。

日本ハビタット協会の事務局は、福岡県の東京事務所が入っている「ふくおか会館」の１階に置かれています。編集部では先日、日本ハビタット協会事務局を表敬訪問しました。

ふくおか会館は、地下鉄半蔵門駅から歩いて５分。すぐ近くにイギリス大使館もある環境のいい場所にあります。

協会の事務局では、事務局長代行の山本博子さん、スタッフの長島若菜さん、飯田綾さんがほぼ毎日、ボランティアで協会の運営にあたってくださっています。また、市民の会のメンバーで現在東京にお住まいの宮本さんもボランティアとして事務局の運営を手伝っています。「国連の仕事に携われることはうれしいことです」と山本さん。

これで東京にもハビタットの広報拠点ができました。日本ハビタット協会とハビタット市民の会が力を合わせてハビタット支援、そして国際貢献にがんばりたいと思います。

ハビタット福岡市民の会事務局

〒810-0001
福岡市中央区天神１－１－１
アクロス福岡８Ｆ
国連人間居住センター福岡事務所内

電　話：092(724)7121～7123
ＦＡＸ：092(724)7124
E-mail：cnhf@gol.com

ホームページもご覧下さい。
http://www.fukuoka.unchs.org

ホームページでは定例会・勉強会の報告や運営委員会の議事録も掲載しています。ゲストブックにメッセージをお送り下さい。

＜入会のお申し込み＞
気軽に勉強会や定例会へご参加下さい。福岡県外の方も大歓迎です。入会希望の方はお名前と、ニューズレターの送付先を、ハガキ、ファックス、電子メールでお知らせの上、年会費１０００円をお近くの郵便局でお振込み下さい。

口座：ハビタット福岡市民の会
０１７３０－０－７８４３４

●とぴっくす
４月８日付のＮ紙に、日本・韓国・中国・タイの４カ国６都市で実施したアジア市民意識調査の結果が出ていました。結果を概括すると、日本への好感度は依然低いものの、「２１世紀のアジアのリーダーは日本である」と答えた人は中国で５割、韓国で６割を超えたそうです。また日本に対しては経済支援よりも、環境対策の貢献を求める声が圧倒的に多くトップでした。つづいて多かったのは人材育成の協力を求める声。この意味からもハビタットの支援を通じ、アジアに貢献することが日本に対する世界のニーズであり、非常に重要なことであると思いました。

●編集後記
「我々を圧迫する一切の不幸から我々を救うものは教育以外にない」とはドイツの哲学者フィヒテの言葉。大人も子どもも含めた広い意味での「教育」こそ２１世紀を「平和の世紀」にするためのキーワードではないでしょうか。ハビタットの活動も広い意味での「教育」にあたります。また市民に対して「アジアの視点」の意識を啓発することもまた「教育」です。またブングエイドのようなアジアの子ども達の教育支援もとても大事です。世界ハビタットデー目指して身近なところからハビタット・ネットワークを広げていきたいものです。（や）